

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を基本目標としている。第3期中期目標期間においては、学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進するとともに、大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携等実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「冬季スポーツ科学研究推進センター」において、特にスキー競技とカーリング競技を対象とした、生体工学的視点からの用具開発や競技者のスキル解析等の研究を実施するとともに、オホーツク地域の基幹産業の課題解決に向けたシンポジウムを開催するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 北見市と締結した「包括的連携に関する協定」に基づき、北見市の遊休公共施設（旧北見競馬場）約31haを、5つのゾーン（工農ゾーン、森林・河川・環境ゾーン、寒冷地ゾーン、管理運営ゾーン、周回道路）に分け、教育・研究・社会貢献活動の啓蒙普及と実践の場として活用するために無償で借り受けており、平成28年度においては、土木関連の研究設備の一部移転等を行い、6件の研究（うち2件は卒業研究の場としても活用）を実施している。（ユニット「地域と連携した雇用創出及び学生の地元定着」に関する取組）
- 幅広い工学知識と、地域からグローバルにわたる多様な問題解決に取り組む能力を身につけた技術者養成を目指す新たな教育研究体制として、従来の伝統的な学問体系にとらわれずに関連する専門分野を連携・融合させた自由度の高いカリキュラムや、アクティブ・ラーニング等を活用した、学生が主体的に課題解決に取り組むことができる環境を取り入れた学部改組を平成29年度に実施することを決定している。（ユニット「地域貢献と地球環境に重点を置いた教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 情報セキュリティの強化に向けた体制整備

独自に作成したe-learning形式での情報セキュリティ講習会を全教職員298名を対象に実施し、受講率100%を達成するとともに、情報セキュリティ対策ガイドラインを制定し、情報資産の格付の基準及びレベルごとのリスクを明確化するなど、大学の情報セキュリティの強化を図っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 冬季スポーツの発展を目指した研究の推進

アスリートの競技力向上や積雪寒冷地での生涯スポーツの発展を目指して、「冬季スポーツ科学研究推進センター」を設置している。同センターでは、特にスキー競技とカーリング競技を対象として、生体工学的視点からの用具開発や競技者のスキル解析等の研究を推進しており、日本カーリング選手権の中継において、大学が作成したショット率分析データが利用されるなどの成果をあげている。

○ 地域の基幹産業の課題解決に向けた取組

オホーツク地域の産学官金各分野の関係者が参加するシンポジウムを開催し、同シンポジウムのパネルディスカッションにおいて問題提起された1次産業を基盤とするオホーツク地域の課題について、「工学」を活用した課題解決のための意見交換を行うなど、地域の基幹産業の課題解決に向けた取組を実施している。